

ごみ分別、環境保全 P R



デザインしたパッカー車の前でポーズを取る三戸高クリエイティ部の生徒ら

農作物や動物 かわいらしく

同社従業員の足瀬光里さんが、同高卒業生であることをきっかけに、新しく導入したパッカー車のラッピングデザインを依頼。同部の3年生5人、2年生1人、1年生2人が希望を聞き取る打ち合わせから始め、デザインに落とし込んだ。

片面はリンゴやトマト、サクランボなどを描き「環境も三戸町もみんな大切な大切」のコピーを入れて環境保全を訴えた。反対側は、筋トレが趣味の従業員が多いことをヒントに、ゴリラなどの動物がごみを分別する絵を描いて「めざせ分別マスター」の言葉を添えた。

19日はラッピングを終えたパッカー車全体に、仕上げとしてたぐさんのシールを張り付けた。

クリエイティ部の上田和奈さん（3年）は「小さい子が見て好感を持ってくれて、かつ三戸町をPRできるデザインにできたと思う」と話した。

足瀬さんは「頑張っている後輩たちと一緒に仕事ができ良かった。かわいらしいパッカー車になったので、多くの町民の方に見てもらいたい」と笑顔を見せた。

収集車のラッピングデザイン

三戸

青森県立三戸高クリエイティ部の生徒有志は、三戸町の三戸清掃社（足瀬光国社長）の家庭ごみを集めるパッカー車のラッピングをデザインした。子どもたちにごみ分別への関心や環境保全への意識を高めてもらうことを狙いに、車の両面に農作物や動物をカラフルに描いた。このパッカー車は町内外で運行されている。

（熊谷勝之）

三戸高クリエイティ部